

再評価結果（平成16年度継続箇所）

担当課：道路局 有料道路課

担当課長名：金井 道夫

事業名	第三京浜道路（改築）		事業区分	一般国道	事業主体	日本道路公団	
起終点	自：東京都世田谷区上野毛1丁目 至：神奈川県横浜市保土ヶ谷区岡沢町				延長	16.6 km	
事業概要	第三京浜道路（改築）は、当路線が接続する道路網の整備、沿道の宅地開発等により、当路線の交通量が増加し、ICで恒常的な渋滞が生じていたことから、連絡等施設の新設及び改築を行う事業である。現在残る野川ICの事業を進めており、野川ICの完成により当路線の京浜川崎ICの渋滞解消が期待される。						
S62年度事業化	- 年度都市計画決定		S63年度用地着手	S63年度工事着手			
全体事業費	610億円		事業進捗率	92%		供用済延長	- km
計画交通量	野川IC 9,800台/日						
費用便益分析結果	B/C (事業全体) 1.7 (残事業) 6.2	総費用 (残事業)/ (事業全体) 44/161億円 [事業費: 25/141億円 維持管理費: 19/19億円]	総便益 (残事業)/ (事業全体) 272/272億円 [走行時間短縮便益: 261/261億円 走行費用減少便益: 9/9億円 交通事故減少便益: 2/2億円]	基準年 平成15年			

事業の効果等

- ・国土・地域ネットワークの構築（日常活動圏の中心都市（神奈川県庁）へのアクセス向上が見込まれる）
- ・災害への備え（対象区間が、第一次緊急輸送道路として位置づけあり）

関係する地方公共団体等の意見

野川ICは、川崎市より早期完成の要望を受けている。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

京浜川崎IC及びその周辺地域における交通状況は、各所で交通量が増加し、交通混雑が発生している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

当事業のうち、保土ヶ谷PA改築は平成4年、都筑IC新設は平成7年、都筑PA新設は平成8年に完成し、現在、残る野川ICについては、用地取得・事業調整中である。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

野川ICは、近接する野川交差点における改良事業との一体的な整備が必要であるが、野川交差点箇所に川崎縦貫高速鉄道事業が計画され、事業調整に時間を要した状況である。今後も、川崎市と連携を図りながら、早期完成に向け、事業を進めていく。

施設の構造や工法の変更等

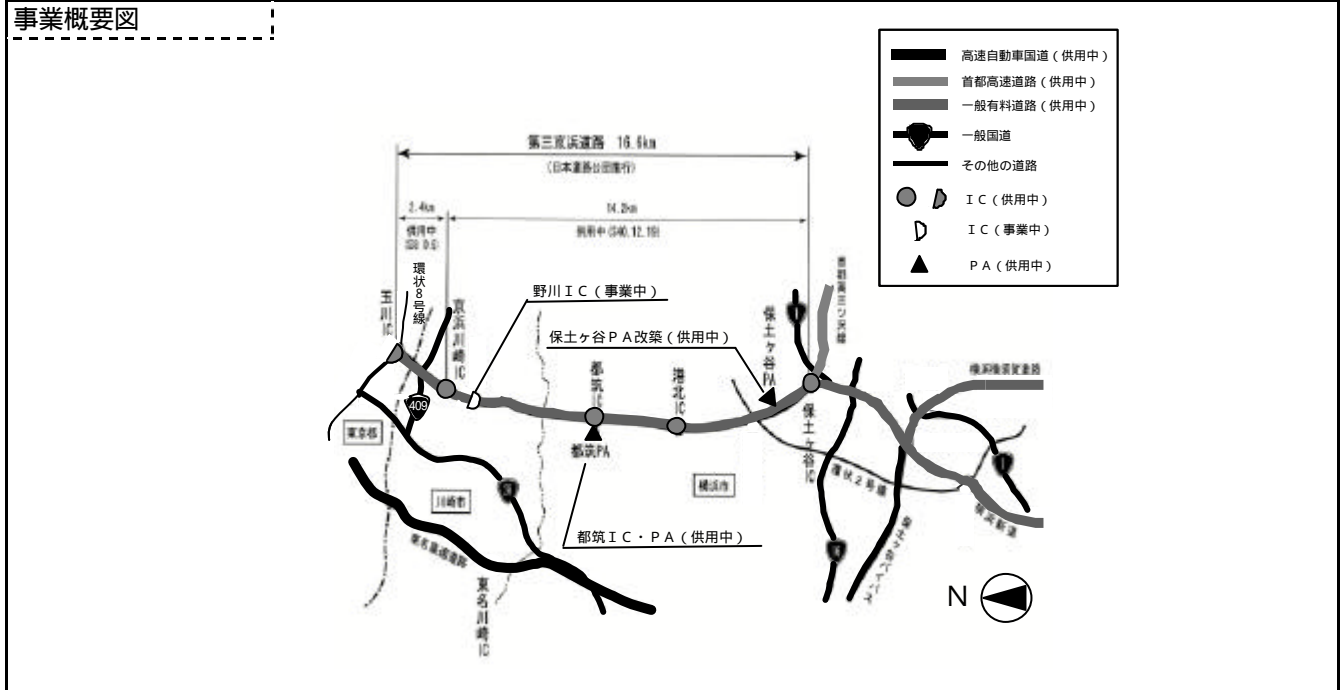
新技術導入や資機材の再利用により積極的にコスト縮減を図っていく。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。